

標 題： Virgin olive oil and nuts as key foods of the Mediterranean diet effects on inflammatory biomarkers related to atherosclerosis [Review]
アテローム性動脈硬化に関連する炎症性バイオマーカーに対する
地中海食事の影響の重要な食品としてのバージンオリーブ油およびナッツ [総説]

著 者： M. Urpi-Sarda, et al. (スペイン バルセロナ大学 IDIBAPS 内科)

掲 載 誌： Pharmacol. Res. 65: 577-583 (2012)

要 旨： 地中海食事の順守は心臓血管系リスクの低下と関連すると、従来の疫学研究および給餌研究が観察してきた。

しかし、関与する分子的なメカニズムは完全には理解されていない。

アテローム性動脈硬化は軽度な炎症性疾患と現在考えられているので、アテローム性動脈硬化と関連する血清と細胞のバイオマーカーに対する地中海食事介入の影響を、最近の研究は探索してきた。

PREDIMED (PREvencion con DIetaMEDiterranea) 試験のサブ研究2件で、バージンオリーブ油またはナッツを補給した地中海食事2種類の3ヵ月目の影響を対照の低脂肪食事と比較して我々は解析した。

両方の地中海食事は抗炎症作用を示し、C-反応性タンパク、インターロイキン-6(IL6)および内皮と単球の接着分子とケモカインを低下させたが(P<0.05、全て)、一方で低脂肪食事による介入後にこれらの数値は上昇した(P<0.05、全て)。

別のサブ研究で、516人の高リスク被験者における血管危険因子に対するこの介入の長期間(1年)の影響を我々は評価し、またこれらバイオマーカーの低下に対する地中海食事の各種成分の影響を評価した。

1年後に、地中海食事群はIL6、腫瘍壊死因子レセプター(TNFR)60とTNFR80の血漿濃度が有意に低下したが(P<0.05)、一方で低脂肪食事群では細胞間接着分子(ICAM-1)、TNFR60とTNFR80の濃度が上昇した(P<0.002)。

さらに、バージンオリーブ油および野菜摂取の最高群(3区分)の人は最低群の人と比較して有意に血漿TNFR60濃度が減少した(P<0.02)。

結論として、高心臓血管系リスク被験者でアテローム性動脈硬化に関連する細胞および循環血液の炎症性バイオマーカーをダウンレギュレートすることによって、地中海食事は心臓血管系に対して抗炎症作用を発揮する。

キーワード： アテローム性動脈硬化、炎症性バイオマーカー、地中海食事、ナッツ、ポリフェノール、バージンオリーブ油
